

夢描く場所

千葉市立高等特別支援学校
学校だより 第10号
令和6年2月29日

「助けを求め、挑戦していきましょう！」

昨年度は、雪に見舞われたコト・モノ DAY でしたが、今年には好天に恵まれ、さらに土曜日開催ということで、2月10日、多くの方々にご来場いただき大盛況にて終えることができました。レジ待ちで長蛇の列ができご迷惑をおかけしたことと思いますが、生徒の活動の場として温かく見守ってくださったお客様に感謝しております。ありがとうございました。この反省を生かし、レジの台数や人員配置など、どうすればよいのか等を生徒と一緒に考えていきたいと思っています。詳しくは各学年だよりで紹介していますので、ご覧いただければと思います。



少し前の話ですが、昨年5月から7月期にNHK BSプレミアムにて放送された「家族だから愛したんじゃない、愛したのが家族だった」というドラマが大変面白くて、そこから興味が色々と広がっていております。作家の岸田奈美さんの自伝的エッセイをもとにしたドラマでした。本については、図書館のとびら3月号(学校の図書だより)にて詳しく紹介しております。是非、ご覧ください。そのドラマの中で主人公の七実役を絶妙に演じていたのが、河合優実さんという俳優でした。数々の映画祭で賞を取っている新進気鋭の演技派俳優です。泣いたり笑ったりの表情が豊かで、コミカルな動きの中にもシリアスさを醸し出す役を見事に表現していると感じました。これまでの出演作を全てチェックして観てみたいと感じさせるほどでした。(現在放送中の「不適切にもほどがある」に小川純子役で出演しています) そしてもう一人、「上手だな～」と頬を緩めニコニコしながら観ていたのがダウン症の弟、草太役で出演していた吉田葵さんという俳優さんでした。吉田さんは現在、特別支援学校に通う高等部2年生です。海外では障害のある役を障害者本人が演じるというはあるようですが、日本では単発のドキュメンタリードラマへの出演はあるものの、連ドラに出演というのは初めてではないかとのこと。サポート役の方が付いての撮影だったようですが、サポート役の方も初めて。手探りでの指導で、はじめは楽しくやらしてもらえばという雰囲気でも注意もなかったようです。そこから現場が共通理解して、ダメなものはダメ。俳優として育てよう、特別扱いはしない。という方針になり、できる手立てを考えていったとのこと。そこからの吉田さんの成長は、目を見張るものがあり、サポート役の仕事は減り、本人も「人をハッピーにする仕事はすごい。俳優になりたい。」と強く思うようになったとのこと。いずれはアメリカに進出してハリウッド俳優になっているかもしれませんね。(カンヌで最優秀男優賞受賞の役所広司さん主演 現在公開中の映画「PERFECT DAYS」にも出演しています)

無責任かもしれませんが、一人で抱え込まずに助けを求めたり、自分で壁や限界を作らず挑戦したりすれば、必ず共感し協力してくれる人がいると思います。誰だって人知れずしている努力や表には出せない苦労や苦悩があるかと思っています。でも、それらをひっくるめて、助けを求め挑戦していきましょう。腹をくってやれば、何でもできる、何にだってなれるのではないかと考えさせられました。作家さん俳優さんの今後の作品、今後の更なる活躍を期待し見届けつつ、その意識やスタンス、モチベーションを見習っていければと思います。本やドラマをご覧になりたい方は、どうぞお声掛けください。

校長 三宅 健二郎